

## 第3回世田谷区基本構想審議会 議事要旨

【日 時】 平成24年10月18日(木) 午後7時～午後9時3分

【場 所】 世田谷区役所第2庁舎4階 区議会大会議室

【出席者】

- 委員 小林正美、竹田昌弘、永井多恵子、松島茂、宮台真司、森岡清志、森田明美、上野章子、宇田川國一、永井ふみ、松田洋、宮田春美、宮本恭子、風間ゆたか、上島よしもり、桜井純子、高橋昭彦、田中優子、村田義則  
(以上19名)
- 区 保坂区長、板垣副区長、秋山副区長、田中基本構想・政策研究担当部長、宮崎政策経営部長、岩本地域行政担当部長、望月基本構想・政策研究担当課長、小田桐政策企画課長、澤谷財政課長、笹部政策経営部副参事

【議事概要】

- 1 今後の審議会の進行について  
起草委員会の設置について、事務局案が報告され、了承された。  
全体スケジュールの修正について、事務局案が報告され、了承された。
- 2 各部会からの報告  
各部部长あるいは副部部长より、報告資料に基づいた報告が行われた。
- 3 各部会の報告に基づく討議  
各部会の報告を受けて、「基本構想・基本計画大綱の構成について」、「基本構想・基本計画大綱のたたき台作成に向けて」の二点を議論した。

《主な意見》

- (1) 基本構想・基本計画大綱の構成について
  - ・区民に直接分かるようなメッセージであるべきである。
  - ・簡潔に具体的な策を書くべきである。
  - ・7から11程度の項目で具体策を簡潔に記すなど、コンパクトな構成にすべきである。
  - ・前文、基本理念、将来目標など、基本的なことをしっかりと組み立てた方が分かりやすいのではないか。
  - ・基本構想が世田谷区で展開される様々な政策の下敷き、基本的なものを示すことがあるとすれば、羅列的であってはいけない。
  - ・子どもたちに、世田谷区ってどういうまちなの？ どういうところなの？ と聞かれた時に、こういうところを目指しているところと、簡単な言葉で伝えられるようなものであるとよい。
  - ・総花式は、非常に良くない。全てに貫徹するひとつの価値があるというようなイメージが必要である。例えば、自治の原則とでも言うべきもの。自治の原則は二つに分解できて、一つは参加、もう一つは包摂である。

- ・従来の形式を踏まえた、しかし総花式にならないように十分に工夫した基本構想を立てた上で、その基本構想の中に様式を参照させるという形で、ある種のスローガン集のようなものを設けるという構成もありうる。これが、自治体の行政の実例重視の流れを踏まえると適切ではないか。
- ・役人言葉やコンサルタントが書くような言葉はやめてほしい。普通の人でも分かる言葉で書くということが原則である。

## (2) 基本構想・基本計画大綱のたたき台作成に向けて

- ・お任せ民主主義から参加型民主主義への移行を進めるためにも、無作為に選んだ区民の有権者から特定のテーマについて意見を聞く住民会議のような組織を行政の運用に利用してはどうか。
- ・小学校が防災における地域の拠点になるべきだという意見を踏まえ、教員の人事権の移管を東京都に求めていくということを盛り込むべきである。
- ・あらゆる努力をして緑の回復をすべきである。これは世田谷区の魅力につながるもの
- ・誰かが誰かと出会える場がたくさんあることが大事だ。
- ・生命に直結することと、未来（人が生まれ、育ち、生産するに至る）を優先したものにしていくべきである。
- ・健康、医療に関しての考え方は示すべきである。
- ・多様性を包含しているような世田谷を作っていくということが強く盛り込まれていくと良い。
- ・復興という言葉をどこかに入れてほしい。復興まちづくりというものに、今後の世田谷は重点を置いてほしい。
- ・世田谷の子が立ち返る場所があるような構想であってほしい。
- ・住民にとって一番興味のあるのが、自分の意見がどう反映されるかということである。参加型の民主主義にするためには、住民会議をした結果について、これが次の施策に反映されますというような明確な文言があれば、住民は参加する意欲が沸くのではないか。
- ・世田谷の個性を前面に出したい。世田谷の5つの行政地域に分かれていて、各地域でまったく住民の雰囲気異なる。その個性を上手に活かして、住民力にしてコミュニティを作っていけばよい。
- ・行政の縦割りに対して、横串を刺すシステムを盛り込んで欲しい。